

# 保育士の専門性の育成と伸長

2009.12.14 提案

## 問題意識

保育士の専門性の育成と伸長；  
養護と教育の一体化の強化  
を目指す、理論的基礎の習得と  
実践の準備

継続教育の可能性

## 課題

- 2年制と4年制、卒後教育の構造化
- 学習内容のアップデート
- 学習内容の明確化と整理
- 世界的トレンドの認識
- 養成における現場との連携
- 現場からのニーズへの対応
- 学生の実情
- 養成校教員の専門性

# 法的根拠

- **児童福祉法**

< 第18条の4 > 保育士とは、(略)登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。

- **児童福祉施設最低基準**

< 第35条 > 保育所における保育の内容は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とし、その内容については厚生労働大臣がこれを定める。

- **保育所保育指針**

< 第1章・総則・4 保育所の社会的責任 > 保育所は、地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に(略)保育の内容を適切に説明するよう努めなければならない。

< 第6章・保護者支援 > (略)保護者への支援は、保育士等の業務であり、その専門性を生かした子育て支援の役割は、特に重要なものである。

## 疑問

- 調査結果から、< 今後さらに充実が必要な科目として「家族援助論」、「発達心理学」、「障害児保育」 > とされているが、これは科目ではなく期待される学習内容と理解するべきではないか
- 同じく、< →保護者支援・子育て支援や相談援助技術、障害・虐待への対応 > とあるが、理論を十分にふまえない技術や、現場の実情(インフォーマルな対話が現実的・日常的な支援である)にそぐわない、経験の裏付けがなく、形式的な学習にどれだけの意味があるか

- 「教育心理学」を削り、「発達心理学」や「教育原理」に組み入れると「発達心理学」からみれば、教授内容が削られる。
- 「精神保健」が「小児保健」に組み入れられると少年期の発達の特徴と諸問題への対応の学びが不十分になるのではないか。
- 「小児保健」「小児栄養」とあるが「小児」の用語は適切か？
- 保育所保育・児童養護施設・乳児院の計画・評価をすべて教授できる教員は想定できない  
→リレー形式で不徹底な学習となるおそれ。

- “はじめに科目ありき”ではなく、学習内容を明確に示すべきではないか
- 養成課程で使用されている教科書の現状
- 「養護」の用語使用の混乱
- 保育所の「乳児」と乳児院の「乳児」の保育を同一の養護の枠組みに入れることは適切か
- 豊かな人間性を養うにはゆとりのなさすぎる学生生活(15コマルール)
- 休暇期間中に集中するために、効果が疑われる実習(入所児童への悪影響も)
- 不適切な施設での長期実習は効果があるか

# 保育士の現状

- 保育内容で他の人に負けない知識または技能を持った分野がある……………25.4%
- パソコンを使いこなしている……………22.8%
- 文章や文字を書くことが苦手である……………57.9%
- ビデオ、カメラなどの機器は苦手である……………52.7%

(H20 年度・こども未来財団児童関連サービス調査研究事業報告書『保育士のやる気』の維持・継続性に関する調査研究より)

## 「養護と教育を一体」とし提供する 機能の強化にむけて

- 児童の発達を理解
- 児童の「学び」の仕組みの理解
- 観察力



観察した事実に基づいて児童の個人レベルでの課題、  
保育内容についての課題を明確化し、行動化する。

# 保育の本質・目的の理解

- 社会福祉(講2)
- 児童福祉(講2)
- 保育原理(講4)
- 養護原理(講2)
- 教育原理(講2)
- 社会福祉援助技術(演2)

【14単位】

- 社会と福祉(講2)
- 児童と家庭への支援(講2)
- 保育所保育の理解(講2)
- 保育職の意義・役割・職務内容(講2)
- 保育所以外の児童福祉施設における児童の養護(講2)
- 保育所における養護と教育の一体化の理解(講2)

【12単位】

# 保育の対象の理解

- 発達心理学(講2)
- 教育心理学(講2)
- 小児保健(講・実5)
- 精神保健(講2)
- 小児栄養(講2)
- 家族援助論(講2)

【15単位】

- 児童の心と身体の発達(講2)
- 保育実践の心理学的根拠(講2)
- 児童の観察と評価(演2)<sup>NEW!</sup>
- 児童の生命の保持(講・実5)
- 児童の情緒の安定(講2)
- 児童と食育(講2)

【13 + 2単位】

# 保育の内容・方法の理解

- 保育内容(演6)
- 乳児保育(演2)
- 障害児保育(演2)
- 養護内容(演2)  
【12単位】

- 保育課程の意義及び編成の方法・計画と評価(演1)
- 保育内容の指導法(演5)
- 3歳未満児保育(演2)
- 児童理解の理論および方法(演2)
- 障害児保育の理論および方法・計画と評価(演2)
- 保育所以外の児童福祉施設における援助の理論と方法・計画と評価(演2)
- 保護者支援(講2) 【16単位】

## 基礎技能

- 基礎技能(演4)

- 基礎技能(演4)
- 課題;乳幼児期の表現活動を豊かにできる保育士の養成にふさわしい教授内容を提供できる教員の必要性

## ～ 選択必修

- 選択必修(8)

- 2年制 選択必修(4)
- 4年制 選択必修(4)

- 2年制 選択必修(4)
- 4年制 必修科目として
  - 「地域福祉」(\* 地域福祉の理論と方法60h)
  - 「家族援助論」
  - 「相談援助」(\* 相談援助の基盤と専門職60h)  
(\* 相談援助の理論と方法120h)

## 保育実習

- 保育実習(実5)
- 保育実習(実5)

## 総合演習

- 総合演習(演2)
- 保育実践演習(演2)

# 教養科目 (2 + 6)

## 4年制選択必修

<p>幼稚園教諭養成課程</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 教科または教職に関する科目 (10)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 選択必修 (10)</li></ul> <p>( * 心理学理論と心理的支援30h ) ( * 社会調査の基礎30h ) ( * 福祉サービスの組織と運営30h )</p>
---	--

## 4年制保育実習 (3)

### 科目変更; シラバスの内容に照らしての検討

疑問;シラバスの文言がなぜ「~させる」  
という教授者主体の文言になっている  
のか?

( \* 社会福祉士新カリキュラム「~する」)

# 「社会福祉援助技術」目標

- 1. 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させる
- 2. 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる
- 3. 人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる
- 4. 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いた演習形態で学び、またコミュニティワーク、ケアマネジメントについても理解させる。

疑問; 2年制新卒の保育士に求められる内容の職務か?

求められるのは保護者に対する「常識的な対応」ではないのか

理論的背景を学ばず2単位の科目とすることが適切といえるか

# 「社会福祉援助技術」内容

## 内容1. 保育と社会援助技術

- (1) 社会福祉援助技術の意味
- (2) 社会福祉援助技術の方法
- (3) 保育と社会福祉援助技術の関係

社会と福祉(「社会福祉」)

## 内容2. 社会福祉援助技術の発展過程

- 内容3. 個別援助技術(ケースワーク)
- 内容4. 集団援助技術(グループワーク)
- 内容5. 地域援助技術(コミュニティワーク)
- 内容6. ケアマネジメント

4年制での養成科目

## 内容7. 事例研究(演習)

- (1) 保育所における児童・家族への援助
- (2) 保育所以外の児童福祉施設における児童・家族への援助

保育職の意義・役割・職務内容

保育所以外の児童福祉施設における児童の養護(「養護原理」)

# 「家族援助論」目標

- 1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。
- 2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。
- 3. 現在の家族を取りまく社会環境における家庭生活、特にその人間関係(夫婦・親子・きょうだい)の在り方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。
- 4. 1～3を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる

<家族の福祉を図る> ことに関してであるが、社会福祉士新教育カリキュラムでは「サービスに関する知識」に300時間を充たさせている。

保育所保育指針第6章「保護者に対する支援」の内容との整合性は？

理論的背景を学ばず2単位の科目内で取り扱うことが適切といえるか

# 「家族援助論」内容

内容1. 家族とは何か  
内容2. 家族を取り巻く社会的状況と支援体制  
内容3. 今日における家族生活

児童と家庭への支援  
('児童福祉')

## 内容4. 「子育て支援」としての家族対応

- (1) 「子育て」からみた家族の課題
- (2) 子育て支援の意義
- (3) 子育て支援サービスの範囲
- (4) 「相談・援助」という「子育て支援」
- (5) 虐待などへの対応
- (6) 子育て支援サービスの課題
- (7) 子育て支援サービスの具体的展開
- (8) 子育て支援における関係機関との連携

保護者支援

指針第6章に沿って、入所児の保護者に対する支援、地域における子育て支援の両者についての理解が必要

内容による枠組みの設定

現行の科目の枠組み & 科目ごとの目標

内容の整理と体系化が必要！

保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉	現代社会における社会福祉の意義、理念						
		社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨						
		社会福祉サービス体系における公私の役割活動						
		社会福祉援助技術および福祉専門職の役割						
		社会福祉の関連領域 - 医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要						
		社会福祉援助技術	保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史					
			社会福祉援助技術の方法及び内容					
			人権の尊重、自立支援、秘密保持の基本姿勢 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術					
		児童福祉	児童福祉の法律、制度、福祉機関・施設の体系					
			児童福祉サービスの現状と課題					
児童福祉の専門職としての保育士の役割 児童、家族に対する相談援助活動								
保育原理	保育の意義の認識、依拠する原因							
	保育の場について、歴史と類型							
	保育所における保育の原理と特性、環境、方法							
	発達過程に応じた保育							
	保育所における保育の健康・安全							
	保育所における多様な保育ニーズ							
	保育所と家庭、地域との連携 保育所における相談援助の基本原則と実践 保育所における自己評価							
養護原理	社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景							
	社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割							
	児童福祉施設などにおける養護の実際							
	児童福祉施設援助者としての保育士の役割や援助 児童観や施設養護観							
教育原理	教育の意義・目的および児童福祉との関連性							
	教育の基礎的概念、理論、歴史、教育に関する体系的知識							
	教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理							
	生涯学習社会における教育の在り方 教育学的な思考や態度の習得							

シラバスの目標と内容による枠組みの対照表( ~ )

保護者支援  
保護者支援  
保護者支援

保育内容の指導法

保護者支援  
保育課程の意義及び編成の方法・計画と評価

内容による枠組みの設定

現行の科目の  
枠組み & 科目ごとの目

		児童の心と体の発達	NEW! 保育実践の心理学的根拠	児童の生命の維持	児童と食育	児童の情緒の安定	NEW! 保護者支援( )
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	子どもの発達の理解(保育は子どもがよき大人に発達することを援助) 人間の受精・誕生から死までの発達 発達期の特徴 保育士と子どもの連鎖的關係 『保育所保育指針』の発達項目					
	教育心理学	教育の過程における心理学的法則や事実 効果的な保育を展開するための教育心理学の基本的事項 幼児期から青年期までの保育と教育の関連 子ども一人一人の発達に対応した教育的対応 保育における教育的要素に関する相談に対応できる能力(を養成)					
	小児保健	小児の健康の意味の認識と保健活動の重要性 小児の心身の健康問題の原因の認識と適切な対処(ができるように) 健康状態を個人生活と集団生活のレベルで理解 小児の疾病異常や事故の特徴とその予防の理解と緊急時の基礎的対応 小児の健康と家庭や地域の関係の認識、連携による保健活動の重要性					
	小児栄養	小児期の栄養と食生活、食生活の意義 保育者が小児に適切な食事が提供できることの意義 保育における食生活が心の健康にも影響すること 食生活と家族の健康や生活、地域との密接な関係 食生活を通じた生活全般や環境の望ましい姿					
	精神保健	小児の精神発達の様相とそれを促す適切な保育の在り方 虐待、いじめ等の心の健康障害の実態の認識と適切な対処の在り方 小児各時期の健全育成を基盤とした保育の必要性 小児の心の健康に関して「家庭・地域・保育の連携の重要性					
	家族援助論	児童・親を含めた家族が保育の対象であること (保育所以外の)児童福祉施設の親についての子育て支援の必要性 家庭生活とその人間関係を踏まえての適切な相談援助が欠かせないこと 家族のニーズに応じた支援対策提供のための援助活動と関係機関との連携					

保以外の児童福祉施設における児童の養護

児童と家庭への支援

現行の科目の枠組  
み & 科目ごとの目標

問題点; 目標と教授上の留意点の混在

		保育課程 の意義及 び編成の 方法・計 画と評価	NEW! 児童理解 の理論お よび方法	保育内容 の指導法	3歳未満 児の保育	障害児保 育の理論 および方 法・計画 と評価	保育所以 外の児童 福祉施設 における 援助の理 論と方
保育 の 内 容 ・ 方 法 の 理 解	保育内容	「保育内容」はすべての内容であること の理解 領域別の学び、総合的にとらえる視点、 子どもの理解や保育方法 発達過程に即した子ども理解、総合 的に指導・援助が行える実践的な力 (保育内容の構成)					
	乳児保育	乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家 庭の現状の確認 保育所や乳児院の果たす役割 乳児保育を担当する保育者としての 役割の自覚 乳児保育の理論や知識・技術の基 本 乳児期(3歳未満児)の発達と保 育 乳児期の大人の役割 乳児の集団保育の課題と問題解決 の方法					
	障害児保 育	一般の保育と障害児保育との連続性 に気づく、障害理解 障害児保育を支える理念、変遷と現 状、今後の課題の理解 障害の理解と個別的な保育上の留 意点 障害児保育場面の具体的な保育方 法の理解 相談機関などの種類と内容、個別 的援助の概略、保護者支援の内容の理 解					
	養護内容	日常的に展開されている具体的な援 助者の援助を理解 児童の心身の成長や発達を保証し援 助するために必要な知識と技能の 習得 児童観や施設養護観を養う					

児童と家庭への支援  
児童と家庭への支援  
保育職の意義・役割・職務内容

保育職の意義・役割・職務内容

社会福祉	社会福祉援助技術演習	家族援助論
<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。</li> <li>2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。</li> <li>3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。</li> <li>4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解させる。</li> <li>5. 社会福祉の関連領域－医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。</li> <li>6. 現代における利用者保護制度(第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解させる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉の意義 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉の理念と概念</li> <li>(2) 社会福祉の対象と主体</li> <li>(3) 社会福祉ニーズの変容</li> <li>(4) 社会福祉の発展</li> </ol> </li> <li>2. 社会福祉の法体系と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉法制の体系</li> <li>(2) 社会福祉のサービス実施体系</li> <li>(3) 社会福祉サービスの評価と情報提供</li> <li>(4) 社会福祉の財政と費用負担</li> <li>(5) 社会福祉サービスにおける公私の役割</li> <li>(6) 社会保障及び関連制度の概要</li> </ol> </li> <li>3. 社会福祉援助技術の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉援助技術の発展経緯</li> <li>(2) 社会福祉援助技術の形態と方法</li> <li>(3) 社会福祉援助活動の動向</li> </ol> </li> <li>4. 社会福祉専門職 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉従事者の概要</li> <li>(2) 社会福祉従事者の専門性と倫理</li> <li>(3) 保健・医療関係分野の専門職との連携</li> </ol> </li> <li>5. 社会福祉の動向 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 少子高齢社会への対応</li> <li>(2) 在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>(3) 社会福祉基礎構造改革の進展</li> <li>(4) ボランティア活動の推進</li> <li>(5) 諸外国の動向</li> </ol> </li> <li>6. 利用者保護制度の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第三者評価</li> <li>(2) 苦情解決</li> <li>(3) 権利擁護</li> <li>(4) 情報提供</li> </ol> </li> </ol>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させる。</li> <li>2. 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。</li> <li>3. 人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる。</li> <li>4. 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いた演習形態で学び、またコミュニティーワーク、ケアマネージメントについても理解させる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育と社会福祉援助技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉援助技術の意味</li> <li>(2) 社会福祉援助技術の方法</li> <li>(3) 保育と社会福祉援助技術の関係</li> </ol> </li> <li>2. 社会福祉援助技術の発展過程</li> <li>3. 個別援助技術(ケースワーク) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別援助技術の意義と機能</li> <li>(2) 個別援助技術の構成要素</li> <li>(3) 個別援助技術の原則</li> <li>(4) 個別援助技術の展開過程</li> <li>(5) 面接、記録、評価</li> <li>(6) 保育場面と個別援助技術の実際</li> </ol> </li> <li>4. 集団援助技術(グループワーク) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 集団援助技術の意義と機能</li> <li>(2) 集団援助技術の援助媒体</li> <li>(3) 集団援助技術の展開過程</li> <li>(4) 保育場面と集団援助技術の実際</li> </ol> </li> <li>5. 地域援助技術(コミュニティーワーク) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域援助技術の意義と機能</li> <li>(2) 地域援助技術の基本的性格</li> <li>(3) 地域援助技術の具体的実践例</li> </ol> </li> <li>6. ケアマネージメント</li> <li>7. 事例研究(演習) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における児童・家族への援助</li> <li>(2) 保育所以外の児童福祉施設における児童・家族への援助</li> </ol> </li> </ol> <p>※教授に当たっては、導入時期においては講義形式で授業を行うことは差し支えないが、全体としては演習的展開とすること。</p>	<p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。</li> <li>2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。</li> <li>3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係(夫婦・親子・きょうだい)のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。</li> <li>4. 1～3を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族とは何か <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族の意味(定義)</li> <li>(2) 家族の機能</li> </ol> </li> <li>2. 家族をとりまく社会的状況と支援体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 都市化</li> <li>(2) 核家族化・少子化</li> <li>(3) 男女共同参画社会の進展</li> <li>(4) 家族の福祉を図るための社会資源</li> </ol> </li> <li>3. 今日における家族生活(家族関係) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 夫婦関係(子どもから見た両親のあり方)</li> <li>(2) 親子関係</li> <li>(3) きょうだい関係</li> </ol> </li> <li>4. 「子育て支援」としての家族対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「子育て」からみた家族の課題</li> <li>(2) 子育て支援の意義</li> <li>(3) 子育て支援サービスの範囲</li> <li>(4) 「相談・助言」という「子育て支援」</li> <li>(5) 虐待などへの対応</li> <li>(6) 子育て支援サービスの課題</li> <li>(7) 子育て支援サービスの具体的展開</li> <li>(8) 子育て支援における関係機関との連携</li> </ol> </li> </ol>